

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470501293
法人名	有限会社 レモンの里
事業所名	グループホーム レモンの里
所在地 (電話番号)	津市神納56-4 (電話) 059-229-8433
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 3 月 10 日(月)

【情報提供票より】 (H20年2月24日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	14 人	常勤 7人, 非常勤 7人, 常勤換算	7.9人

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000~50,000 円	その他の経費(月額)	40,000 円~	
敷金	有(円) <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有(1,000,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 / <input checked="" type="radio"/> 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,334 円			

(4)利用者の概要(2 月 24 日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名	
要介護1	2 名	要介護2	4 名			
要介護3	2 名	要介護4	1 名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	85.4 歳	最低	72 歳	最高	99 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	生協病院 遠山病院 いのうえ心身クリニック 川浪内科 林歯科
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所の南、西側は遠くに山、近くに田畑が見渡せる郊外にあり、静かな環境で平屋建ての1ユニットのグループホームである。建物内部は、高い天井と採光に工夫され明るく、職員は障害者の実習生を含め年齢層が幅広く、音楽を中心とし職員と利用者の和が保たれており、利用者の生き生きとした表情からも、日頃からの満足感が伝わってくる共にコンサート開催などで利用者の生活に張り合いを持たせている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価での改善課題は無く、更なるサービスの質の向上に努めている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を日常支援の振り返りのツールとして見直し、職員の意識合わせが実施されている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>本年度は二回開催され、事業所の実態と取り組み状況や5周年事業について話されている。参加者の自治会長、老人会長からも運営に対する協力の申し出も有り来所の機会には利用者との交流が行われている。尚、開催は2ヶ月に一度程度が望ましく、自己評価の内容、外部評価の結果についても公表される事が望まれる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>事業所全体の様子についてはホームページで案内しており、苦情は出ていない。家族の来所、食事会等で意見、苦情等を聞く様にしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会、老人会、神社の祭礼等に参加すると共に、認知症の講演会や介護教室を主催して交流を図っている。</p>

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自分を大切に健康的な暮らし」と「地域を含めた人との交流を大切にオープンな暮らし」を基本理念としてつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念に基づき、ストレスの溜らないお互いが助け合うオープンなスタンスで、その人に合わせた支援に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の自治会、老人会や神社の祭礼等に参加すると共に事業所主催の介護教室、認知症講演会を実施して交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、施設長を中心に先ず評価し、職員は評価が初心に戻る機会と捉え、職員の意識合わせと支援の見直しに取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度は二回の開催で、議事録では事業所からの実態と支援の取り組み状況が話されている。参加者の自治会長、老人会長からは事業所の運営に対する協力の申し出も有り、その後来所された時には利用者との交流が図られている。尚、議事録では、自己評価の内容説明及び外部評価の結果公表は確認出来なかった。	○	会議の開催は2ヶ月に一度程度が望まれる。その都度テーマを出して意見を聞いたり相談したりし、事業所の取り組み状況に対する意見、質問等を積極的に聞かれ、支援に反映されている自己評価の内容や外部評価の結果についても公表される事が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護保険課の職員が来たり、事業所からコンサート開催についての話をしたりして連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームページで事業所の様子を随時伝えると共に、家族の来所時や食事会等で報告をしている。又、身体に変化がある時には電話で連絡をとっている。尚、預かり金は無く立替が有ればその都度対応している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情窓口を記載していると共に、家族旅行、食事会や来所時に話を聞き課題を検討し即時支援に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職者がある場合は、交代者と重複して支援できる様に配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全国グループホーム協会・三重県グループホーム連絡協議会・三重県・三重県社会福祉協議会・三重大学等の研修に積極的に参加する様に配慮している。職員の段階に応じた短期、中期の計画は確認出来なかった。	○	研修には積極的に参加されているが、今後の取り組みとして、職員の実践の習熟度(役職・経験)に合わせた「個人別育成計画」を作成される等、段階に応じた研修体制のより一層の充実を期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内外のグループホームとの交流会及び、福祉関係者と交流していると共に他のグループホームの改善指導を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族が来所したり、事業所から訪問したりして相談しながら開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は常に、利用者が年上である事を念頭におき、丁寧過ぎないようにしながらも、言葉には注意している。音楽を通して一緒に楽しみながら共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時の利用者基本台帳に基づき、現在の希望や意向を把握して支援しながら、本人がしたいことを見つける様にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入所時の利用者基本台帳及び、本人、家族の意向に基づき、管理者、職員間で常に話し合い事業所の理念を基に計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	実情に合わせた最適なケアを即時実行し、三ヶ月毎に見直しをし、項目毎に評価を行っている。評価の結果の内容を反映した介護計画書の確認が出来なかった。	○	見直しをされた計画書の作成には、三ヶ月毎の評価結果の記載をされる事が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	認知症予防教室、入居者が自ら歌うコンサート等を開催しており、事業所見学を積極的に受け入れている。利用者には、外部の応援を得て外出や外泊時の送迎等を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望もあり、複数の医師の診断を受け、月二度の内科医の訪問で検診を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族との確認書は交わしていないが、終末期まで支援する体制で家族と話し合い、職員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録の管理は事務所できちんとキャビネットに保管されている。主体は利用者という考えから、利用者にとって嫌な事は言わないこと、で意思統一している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食は各自のペースで摂っており、歌や散歩もやられている気持ちを持たせない様に体調を観ながら自由参加とし、本人の希望を大切にして支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事意欲向上の為にガラス食器を使ったり利用者が食材の事前確認をするなどの工夫をしている。食事の下ごしらえや、後片付け等出来る限り一緒にしたり、テーブルへ運ぶ時は全員が自分で行っている。又、職員と一緒に食事する事による仲間意識の向上も実践している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本は週三回を最低入浴とし、本人の希望とタイミングを考慮しながら支援し、お湯は一人ひとり入れ替えてみんなが一番風呂を楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	年一回のグループホーム合同コンサートの開催等、張り合いを持って貰う事を心がけ、生活歴に応じた楽しみ事の支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	特に風の強い日以外は、近くへ散歩に出かけている。又、買い物は希望者と近くのスーパーに車で出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	徘徊する人も居るが「目を離さない」を基本に、鍵を掛ける事は「人間関係を損なう」という考え方の基、部屋、玄関には施錠していない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火訓練は実施している。避難所への避難訓練や経路確認は行っていない。事業所のガーデンに一時避難可能なビニールハウスの設置をしている。運営推進会議を通じて、近隣の方々の協力が得られる体制にある。	○	一人ひとりの利用者の状態を踏まえ、確実な避難誘導が出来るよう、地震、その他の災害の想定及び、夜間を含めた対応の検討を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの経過記録、かかりつけ医との相談に基づき、カロリーや水分摂取量(夜間は温かいお茶を提供)が管理されており、契約医の診断を含め体調管理されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物や鉢花、雑誌等が随所に置かれ、静かな環境づくりのためにテレビは設置されていない。居間、食堂の大きく設けられた窓からは、遠くの間々や庭の樹木が見え、季節感や生活感が感じられる。廊下や台所、食堂の天井は高く、採光に工夫され明るく居心地良さがある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は南、西に配置され明るく、居心地よく過ごせる工夫がされ、利用者はそれぞれ自分の使い慣れた物が持ち込まれている。		